

銀行という職場

— 元銀行員から、就職について考える若者へ —

(はじめに)

高校生、大学生で、自分の就職や将来について考えている人は多いと思います。しかし、学生にとって、様々な職業の実際の姿を想像する事は容易ではないはずです。

そこで、少しでも学生の選択の参考になれば、と考えて、銀行という職場についての紹介文を書くことにしました。

24年間銀行に勤務した時の経験、感じた事、考えた事を紹介したほか、他の銀行の人から聞いた話も参考にして、「銀行に就職するという事はどういう事か」をイメージしてもらえそうなものにしました。

序章では、私が大学時代、何を考えて就職を決めたのか、御紹介します。

第一章では、私の銀行での仕事歴を御紹介します。預金課、外国為替課、調査部等々で、どのような仕事をしたのか、イメージを伝えようというものです。

第二章は、銀行員というものについて、御紹介します。加えて、そもそもサラリーマンというものについても、イメージを持ってもらえるように工夫しました。

第三章では、銀行業界の将来性について、考えてみました。戦後今までの銀行業界の歴史を振り返ると共に、30年後に銀行業界がどのようなになっているのか、私なりに想像してみた、というわけです。

終章は、就職先について考える際に、検討すべき事項について記しました。これを参考にして、「後から後悔する事がないように、全力で検討」していただければと思います。

なお、内容については出来るだけ正確に書いたつもりですが、思い込みや誤解もあるかもしれません。その節はお許してください。